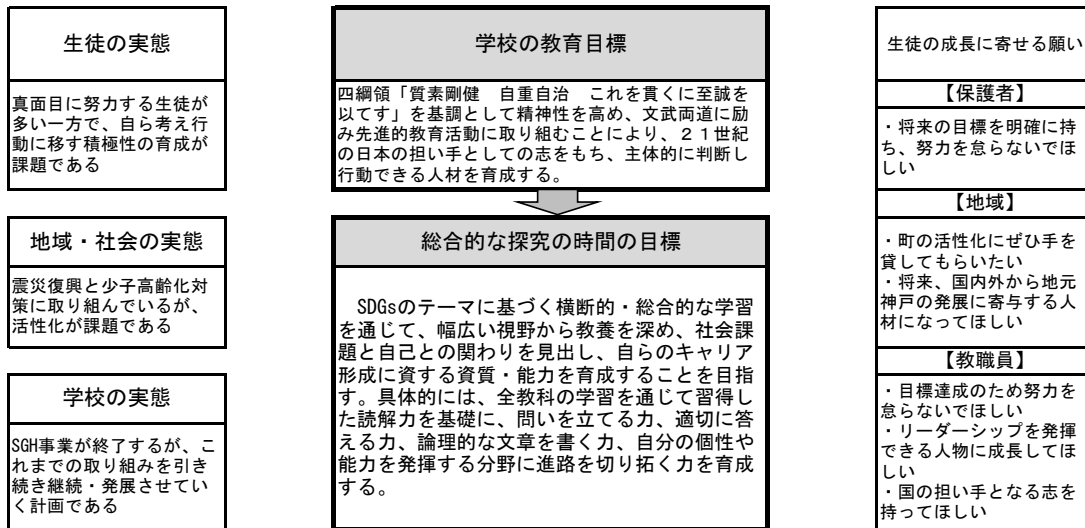


兵庫高校探究活動「ひょうたん」の全体像



目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力		
第1学年探究課題	第2学年探究課題	第3学年探究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン講座を通じて、社会における自己の在り方・生き方を考える ・SDGsに関するリレー講座を実施し、社会課題についての幅広い視野を獲得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関するテーマに沿って、新聞ワーク、ディスカッションに取り組み、探究活動を行う ・探究活動の手法について学び、活用する ・テーマに沿って、社会における自己の在り方・生き方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関するテーマについて、自分なりの解決策を考え、発表する ・探究活動を通じて得た知識・技能や考えをまとめ、3年間の振り返りを行う ・テーマについて、社会で自分の個性や能力をどのような分野で発揮するのかを具体的に考える
知識及び技能	知識及び技能	知識及び技能
中学校までに得た知識をもとに、様々な分野で自己実現を図っている先人の取り組みを通してキャリアデザインについて理解を深める。その際に、MDGsからSDGsにいたる背景や国連において全会一致合意に至った目標であることを理解するとともに、実践事例等についても知見を得る	全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、SDGsに関するテーマについて理解を深める。さらに、新聞・書籍等を活用して幅広い教養を獲得し、探究学習のプロセスを通じて、社会貢献の在り方やグローバルな課題がわかり、パートナーシップという概念的な知識を構造化するとともに、社会発展のための具体的な取組があることを理解する	全教科・科目を通じて習得した知識を横断的・統合的に活用し、SDGsに関するテーマについて詳細に理解する。さらに、新聞・書籍等を活用して幅広い教養を身につけ、探究学習のプロセスを通じて、多様性や創造性という概念的な知識を構造化するとともに、世界が直面する課題と自己のあり方がつながることを理解する
思考力・判断力・表現力	思考力・判断力・表現力	思考力・判断力・表現力
【問いを立てる力】SDGsに関する知識をもとに、探究するテーマ設定をすることができる。 【答える力】講師の発言や資料を用いながら自分なりの答えを選択・判断することができる。 【書く力】与えられた条件を理解し、資料を活用しながら、文章を書くことができる	【問いを立てる力】SDGsに関連させて探究テーマを設定することができる。また、他生徒に対して適切な質問ができる。 【答える力】複数の資料を用いながら説得力のある適切な解決策を示すことができる。 【書く力】課題と解決策を理解し、複数の資料を比較・検討しながら、ポスター等で一貫性のある文章で表現すること	【問いを立てる力】探究テーマについて多面的・多角的に追究できる。また、他生徒に対して適切な質問ができる。 【答える力】複数の資料を用いながら説得力のある適切な解決策を示すことができる。 【書く力】課題と解決策を深く理解し、複数の資料を比較・検討しながら、レポート等で一貫性のある文章を書くことができる
学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等	学びに向かう力・人間性等
中学校までに得た知識をもとに教科横断的に活用し、先人の知識や経験を積極的に取り入れ、自分なりの課題意識をもって探究活動に進んで取り組もうとする	全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、新聞・書籍等で得た知見を横断的・統合的に活用することで幅広い教養を身につけるとともに、他生徒とのグループ学習を通じて合意形成の姿勢や意見の組み合わせによる創造性に関心を持つことができる	全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、新聞・書籍等で得た知見を横断的・統合的に活用することで幅広い教養を身につけ、自分の個性や能力を発揮する分野で研究を進展させ、自らの社会参画により課題解決を実現することに強い意欲と関心を持つことができる

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
3年間を通じて、研究サイクルの基本的プロセスを学び、グループによる協働学習スキルと、発表を通じたプレゼンテーション能力を習得し、資料を整理しレポートを作成するなど探究活動を体系的に展開する。	個人の探究活動とグループの協働的な学習を相互に関連付けて実施して、研究サイクルを体験させるとともに、新聞等を活用してSDGsに関連する生徒の課題意識を連続して発展し、深化させる支援を行う。	探究推進委員会を中心に目標設定、年間計画、教材、評価方法を企画立案し、授業運営は学年団を中心に行う。生徒20名につき教員1名(最大)の指導体制をとる。	毎時間ごとにルーブリック評価を実施し、発表会では生徒相互、教員、PTA等の社会人によるパフォーマンス評価を実施し、個人の振り返りの時間を設け、学習計画の見直しを図る。

各教科・科目等との関連	地域や大学との連携	小学校や中学校との連携	高等学校間の連携
全教科の学習を通じて読解力の育成を図るとともに、英語科でSDGsに関する国連文書等の英文読解したり、国語科や公民科で社会課題についてディベートを行ったり、数学と情報において統計やデータ処理について学習する。	神戸市企画調整局及び長田区(長田区と平成30年連携協定締結)や京都大学、大阪大学(国際公共政策研究科と平成26年連携協定締結)、神戸大学、兵庫県立大学、同窓会と連携してコンソーシアムを構築する。	小学校や中学校での教科・科目、特に「総合的な学習の時間」や「トライやるウィーク」での学びの成果を生徒から聞き取り、本校での学びに生かす。	本校主催「未来創造シンポジウム」や本校事務局「高校生国際問題を考える日」にて、他校生徒・教員と議論や交流を行う。また、「福井大学ラウンドテーブル」や「探求甲子園」等外部の発表会に積極的に参加する。